

第11回 鹿児島県原子力安全

令和元年11月26日に第11回の専門委員会が開催されました。

・避難計画等防災専門委員会について

九州電力などからの報告を受けて、委員からさまざまな意見や助言がありました。

1 川内原子力発電所の安全性の確認について

特定重大事故等対処施設の対応状況について(九州電力)

- 特定重大事故等対処施設を設置期限までに完成することができないことから、1号機は2020年3月16日から、2号機は2020年5月20日から発電を停止して定期検査を実施し、当該定期検査において同施設の設置工事を行うとの説明がありました。

主な質疑応答

- Q** 再稼働後、川内原発では特定重大事故等対処施設が設置されていない状態で運転されているが、テロリズム等に対する原子炉施設等の安全性をどのように担保していたのか。
- A** 航空機衝突やテロリズムに対して十分な対応が取れるかということも新規規制基準の中で審査され、川内原発は平成27年に再稼働した。特重施設は、更に安全性を高めるための恒設の設備であると位置付けている。

1号機の定期検査結果について(九州電力, 原子力規制庁)

- 今回の定期検査では、九州電力による113項目の検査と国による62項目の検査が行われ、いずれも異常は認められなかったとの説明がありました。

主な質疑応答

- Q** 定期検査期間中における放射線業務従事者の線量分布を見て非常に低いと感じたが、今回の定期検査では、蒸気発生器の伝熱管検査は行わなかったのか。
- A** 今回の定期検査では、伝熱管検査を3機ある蒸気発生器のうち2機で行っている。

特定重大事故等対処施設とは?



特定重大事故等対処施設は、故意による大型航空機の衝突やテロリズムにより、炉心の損傷が発生するおそれがある場合などにおいて、放射性物質の放出を抑制するための施設です。

発電所では、重大事故等に対応するため、送水車等の可搬型設備等を配備していますが、特定重大事故等対処施設は、安全対策のバックアップとして、原子炉格納容器破損防止対策に対する信頼性をさらに向上させるために設置するものです。

2 原子力防災対策について

原子力防災アプリ等の概要について(鹿児島県)

- 県が開発している「原子力防災アプリ」等の概要について説明しました。
- 原子力防災アプリとは、平常時は、原子力災害の知識の習得や桜島の降灰情報などが確認でき、原子力災害時には被災情報、避難経路、避難所、空間放射線量率のモニタリング情報等を確認できるアプリで、令和3年度の完成を目指しています。

意見

原子力防災アプリは、使用する人が使いやすいよう、普段よく使われているアプリとの連携も考えていただきたい。

原子力防災アプリが多くの方に利用いただけるよう、住民の方への周知についても並行して進めてほしい。など

令和元年度原子力防災訓練の概要(案)について(鹿児島県)

- 専門委員会や昨年度の訓練実施後の反省会で出された意見等を踏まえた検討状況を説明しました。
- 今年度の訓練は、新たに離島住民の本土への搬送訓練、第三者機関による訓練の評価・検証などの実施を検討しています。

意見

毎年、我々委員は原子力防災訓練を視察しているが、委員全員が同じ箇所を視察するよりも、専門分野等に応じた箇所を視察する方が有効ではないか。など

避難時間シミュレーション結果を受けた対応案について(鹿児島県)

- 平成30年度に実施した避難時間シミュレーション結果を受けた対応案について説明しました。

対応案

- 避難時間シミュレーションで明らかになった混雑箇所について、避難車両の交通誘導を行う県警と情報共有し、連携を図る。
- 避難経路の代替経路をあらかじめ複数設定する。など

意見

避難退域時検査で使用する機材をどこから搬送するのか等についてもシミュレーションしてみてもどうか。など